人材育成の現場から

おおいた林業アカデミー

大分県由布市湯布院町　修学期間：１年間　定員：12名

おおいた林業アカデミーは、将来的に林業経営も担いうる有望な人材を育成することを目的に、林業の就業に必要な知識や技能を習得する１年間の研修制度です。県の林業労働力確保支援センターである「(公財)森林ネットおおいた」が事業主体となり、平成28年４月に開講しました。

本アカデミーの研修カリキュラムは、林業の基礎知識の習得から資格取得、県内事業体へのインターンシップに至る計19科目で、苗木生産技術や本県の特徴である椎茸栽培技術も含む幅広い内容で構成されています。この中で特に主眼を置いているのが、林業の基礎となるチェンソーや刈払機の安全な作業技術の習得です。

このため、労働安全対策について、基礎知識やチェンソーによる伐木造材と刈払機による下刈実習、機械のメンテナンス実習などに全研修日数200日の約４割を割り当てています。実習の際には、開始前に必ずKY活動(危険予知活動)を実施し、危険個所を研修生で共有するなど、現場での実践を通して得られる安全技術の習得に力を入れています。

また、昨年度からは大分県が作成・導入した「熟練者と非熟練者の視点解析による安全な伐倒作業の研修教材」や「搭乗式ハーベスタシミュレータ」などの先端技術を活用した実践研修をカリキュラムに取り入れることで、安全作業に対する理解度を深める工夫をしています。さらに、今年度はチェンソー伐倒のVRシミュレータ研修やドローン操作研修を加えることで、研修内容の充実を図っていくことにしています。

研修生の主な就業先となる認定林業事業体からの評価も高く、昨年度の卒業生９名を含むこれまでの卒業生全員が県内の林業事業体等に就業しました。卒業した研修生からは、「アカデミーを通じて安全意識を徹底して身につけることができた」、「安全作業に関する研修を多く取り入れたことで就業後の仕事に役立っている」という声が寄せられています。また、今年度の研修生９名のうち３名は県外からの移住者、２名は女性であり、就業後の定着率を高めるうえでも安全作業の研修を徹底させる必要性を感じています。

おおいた林業アカデミーも開講して５年目を迎えることになりました。これまで培ってきた経験を活かし、さらに研修生のスキルアップや安全意識の向上につなげられるよう研修の充実を図ることで、本県の林業を牽引するリーダーの育成に努めていきます。

伐採実習前の KY 活動

伐木造材研修

チェンソーのメンテナンス実習

刈払機による下刈実習

下刈実習前の KY 活動

視点解析による安全な伐倒作業の研修教材を使用した講義

搭乗式ハーベスタシュミレータによる研修